

前書き

本書の初期の構想からこの第4版の出版に至るまで、私たちは常に、臨床医が骨折の患者をマネジメントするのに実践的で使い勝手のよい本をつくることをめざしてきました。本書は、各骨折に関して、何を検索すべきか、急性期には何をすべきか、いつ紹介すべきか、長期的な骨折のマネジメントはどうすべきかなど、必要な情報を迅速に見つけることができるような体系的なアプローチをすることで、実用性と使い勝手のよさを担保しています。多数の高品質なX線写真とイラストは、プライマリ・ケア医にマネジメント可能な骨折と紹介が必要な骨折を適切に見分けるのに役立ちます。

本書は、第3版の成功に基づき、特に急性期医療に携わる臨床医にとって、よりよい参考書となるでしょう。救急医学の専門医である編集者が、各章に救急医学の観点をとり入れています。新しい小見出しや表には、緊急時の注意事項、紹介やコンサルトの時期、緊急時の対応、ポイントオブケア超音波、鎮静と鎮痛（処置時の鎮静を含む）、骨折・脱臼の整復法、救急外来や診療所からの帰宅前の再評価などが追加されています。

体系的な基本形式はそのままに、第3版の情報を最新のエビデンスや参考文献を盛り込んで大幅に改訂しました。また各骨折の画像診断のセクションでは、骨折を特定するために望ましい検査方法に関するエビデンスを盛り込んで議論を拡充しました。各章は、骨折マネジメントの知見が徐々に改善されてきたことを反映して更新されています。新しいX線写真を追加し、あなたが遭遇するであろう骨折の最適な症例を掲載しています。電子版書籍には、固定や脱臼の整復の手技を紹介するビデオも含まれています（訳注：本翻訳版では省略しています）。

改訂版の作成にあたり、多くの方々のご協力をいただきました。また、各章や付録でご協力いただいた以下の寄稿者の方々にも感謝いたします。Ashkan Alkhamisi, MD（足指の骨折）、Nicholas Dorsey, MD（上腕骨の骨折）、John Malaty, MD（顔面および頭蓋骨の骨折）、Charlie Michaudet, MD（橈骨と尺骨の骨折）、Ryan Petering, MD（指の骨折・手根骨骨折）、Michael Seth Smith, MD（中足骨骨折）、および Michael Petrizzi, MDと Timothy Sanford, MD（付録）。救急医学と放射線医学の面で貢献してくれた Rachel Bengtzen, MD, Sandra Jackson, MD, および Cooper Dean, MDに感謝します。また、この本の初版・第2版に貢献した Walter Calmbach, MDに感謝します。そして最後に、骨折マネジメントのための最も正確で実用的な実践書を提供するという私たちのビジョンを追求するためにこの仕事を後押ししてくれた多くの実地医家たちに感謝します。

M. Patrice Eiff
Robert L. Hatch